

eCAADe-2020での海外発表



目で見ると
海外論文発表

朱 関 皓*

eCAADe-2020 Berlin, Germany

Key Words : Mixed Reality, Diminished Reality, Building Information Modeling, Co-Designing, Stock Renovation

<参加会議名>

The 38th Education and Research in Computer Aided Architectural Design in Europe Conference

<開催場所> ベルリン、ドイツ (Online)

<渡航期間> 2020年9月16日~2020年9月18日

<発表タイトル>

Integrated Co-Designing using Building Information Modeling and Mixed Reality with Erased Backgrounds for Stock Renovation

私は今回、2020年9月16日~18日に web で開催された国際会議 eCAADe2020 (The 38th Education and Research in Computer Aided Architectural Design in Europe Conference) に参加し、研究発表と学術交流を行った。今回コロナの影響で学会は web 発表になったが、参加者は大きな影響もなく参加できた。eCAADe は 1983 年に設立され、建築および関連する職業の研究と教育におけるコンピューター設計を中心に扱う。年に一度、全世界から研究者・実務者・学生らが集結する。建築文化への倫理的フィードバック、ヒューマンマシンインターフェースの進化、ユビキタスコンピューティング、機械学習を促進する技術ソリューションに焦点を当てており、大会テーマは、「Anthropologic – Architecture and Fabrication in the cognitive age …

from smart to behavioral … from digital to material] (人類学—認知時代の建築と製作…スマートから行動へ…デジタルから素材へ) となった。

私は、屋内環境品質の向上を最終目標として、背景消去機能を追加したマルチユーザー MR システムを開発した。このシステムは、設計者が施主に提案するリノベーション計画において、実在の壁を隠消現実機能でバーチャルに取り除いた状態で提示することができる。そして、設計者と施主が同時にそのバーチャル世界を体験できることで、施主がリノベーション計画をより直感的に理解でき、設計者と一緒に検討と評価することができる。プレゼン後の Q&A では、研究者達から質問を受け、意見を交換することで、貴重なアイデアと改善点を得ることにつながった。また、世界中の研究者達の発表を聞き、話し合い、考えを交換することは本当に楽しい体験であるとともに、自分の知識不足を改めて認識し、他の領域についてももっと勉強したいという意欲が湧いた。

最後に、このような貴重な機会をくださった生産技術振興協会に、深く感謝申し上げます。



会議タイトル



会議参加画面



* Yuehan ZHU

1993年1月生まれ
大阪大学 大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻卒業 (2018年)
現在、大阪大学 大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻 博士後期課程3年 修士
TEL : 08022873754
E-mail : zhu@it.see.eng.osaka-u.ac.jp



VR ホール